



各 位

2022年5月12日

会社名 東京製綱株式会社
代表者名 代表取締役社長 原田 英幸
(コード番号 5981 東証プライム市場)
問合せ先 取締役執行役員総務部長 喜旦 康司
(TEL. 03-6366-7777)

特別損失の計上及び2022年3月期連結業績と業績予想の差異、
並びに個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年3月期において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、2021年5月14日に公表いたしました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の通期連結業績予想と本日開示いたします「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の業績実績に差異が発生しましたこと、また、通期個別業績においても前期実績値との差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社連結子会社である東綱スチールコード株式会社においては、同社が2019年12月に機関決定した生産性向上のための合理化投資や収益改善諸施策などの構造改革を推進してきております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で合理化スケジュールが後ろ倒しとなったこと、また、エネルギー、諸資材、輸送コスト等の運営コストの急騰を販売価格に転嫁するのにタイムラグが発生したことなどから、事業用資産の回収可能性を再検討いたしました。その結果、同社は減損損失を計上することとなり、2022年3月期の当社連結決算においては固定資産の減損損失1,164百万円を、当社個別決算においては関係会社株式評価損1,067百万円を特別損失としてそれぞれ計上することとなりました。これら特別損失計上後の2022年3月期業績につきましては、下記2. および3. の実績(B)欄に記載の通りとなります。

2. 2022年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2021年5月14日発表)	百万円 60,000	百万円 1,500	百万円 1,500	百万円 1,100	円 銭 68.28
実績(B)	63,780	1,621	2,021	1,306	81.08
増減額(B-A)	3,780	121	521	206	—
増減率(%)	6.3%	8.1%	34.7%	18.7%	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	百万円 59,183	百万円 700	百万円 209	百万円 408	円 銭 25.33

【差異が生じた理由】

当期の売上高は、自動車業界を始めとして新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けた前年同期からは大きく回復したほか、当初想定を上回る諸資材価格の高騰に合わせた製品価格の改定を進めてきた結果、売上高は当初予想を上回りました。

利益面では、各事業セグメントの取り組みが堅調に推移したことで営業利益が改善したことに加え、為替レートが当初想定以上に円安に推移したことで為替差損益の改善が進んだ結果、経常利益で予想を大幅に上回りました。親会社株主に帰属する当期純利益については、前述の特別損失計上による影響がありましたが、一方で、当期業績の改善に伴う繰延税金資産の回収可能性の再検討により、2022年3月期において繰延税金資産を追加計上いたしました。これに伴い法人税等調整額（益）485百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は当初予想を上回りました。

3. 2022年3月期通期個別業績と前期実績値との差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期(2021年3月期)	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
実績 (A)	37,122	720	1,330	△3,268	△220.88
当期(2022年3月期)					
実績 (B)	37,877	856	1,778	1,068	66.30
増減額 (B-A)	755	136	448	4,336	—
増減率 (%)	2.0%	18.8%	33.7%	—	—

【差異が生じた理由】

連結業績同様に前期からの業績回復傾向に加え、前期決算では、一過性の環境対策引当金や支払手数料の計上により経常利益が抑制されていたことや、関係会社株式評価損など多額の特別損失を計上したことで当期純損失を計上しておりました。当期におきましても前述の特別損失計上がありましたが、当期純利益は黒字に転換し、前期実績に対して大幅な改善となりました。

以上